

I D		外来・入院(号)
氏 名		性別
生年 月日	年 月 日 (歳)	

化学療法指示書 (レミケード点滴静注)
関節リウマチ

4回目以降・8週間毎

主治医	
-----	--

通常、体重1kgあたり3mgを1回量とし点滴静注する。
初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間の間隔で投与を行うこと。
効果不十分の場合は段階的に増量や投与間隔の短縮が可能。
最短の投与間隔は4週間。

患者の体重
kg

レミケード 3mg/kg = () mg
投与量を増量する場合、10mg/kgまで
投与間隔を短縮した場合、6mg/kgまで

外来化学療法加算1B		サイン						
		P	r	D	r	N	s	医事
年 月 日 ()								
[:]	ボトル①	①		原則 120分 以上 ・ 今回 分 ↓				
	0.2~1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いた インラインフィルターを通して点滴静注すること。 生理食塩液 250mL 1本 レミケード()mg () V 120分以上かけて ※それまでの投与でインフュージョンリアクション認められなければ() 点滴時間を短縮することができる (平均速度 5mg/kg/hrまで) 今回は () 分で投与							

重大な副作用

- 重篤な感染症：肺炎、敗血症、真菌症など
- 過敏症：ショック、アナフィラキシー様症状
- 間質性肺炎
- 抗dsDNA抗体の陽性化を伴うループス様症候群
- 脱髄疾患
- 横紋筋融解症

主な副作用

- 上気道・下気道感染
- 発疹
- リンパ球減少、白血球増加、ALT増加
- 口内炎

治療開始時、治療中の注意

- 結核の有無
- B型肝炎ウイルス感染の有無
- 定期的な胸部レントゲン等の検査、呼吸器症状
- 投与中、および投与3か月間は生ワクチンは接種しないこと
- メトトレキサート製剤による治療を併用すること
- うっ血性心不全に禁忌
- 脱髄疾患およびその既往歴に禁忌

調製時の注意

- 21Gの(またはより細かい)注射針を用いること
- 1バイアルあたり10mLの生食を抜き取り、バイアルを回転させながら緩やかに溶解し、溶解後は5分間放置すること。ふり混ぜて溶解しないこと。

